

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表（平成30年度）

法人名	特定非営利活動法人 コレクティブ	代表者	川原 秀夫	法人・ 事業所 の特徴	認知症になっても障がいがあってもご本人の住みなれた地域で暮らし続けたいという思いを支えます。通い・訪問・泊まりを組み合わせながらも、安易に通いを利用するのではなく、「自宅で暮らせるにはどうしたらよいか」を常に考え、これまでご本人に関わってこられた地域の方々とともに、ご自宅への訪問を中心に暮らしを支えていきます。
事業所名	小規模多機能ホーム いつでんくるばい	管理者	稲富 慎一		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	5人	1人	0人	1人	1人	2人	人	12人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	事業所評価をミーティングで見直した際、次の運営推進会議で進行状況をお知らせします。 6月、10月、2月。	事業所評価の振り返りが2回しかできておらず、運営推進会議での報告もできていない状況。取組み意識が低かった。	全員で取り組んでいるのは見える。事業所評価の中身まではわかるづらいので、定期的にわかりやすく説明してほしい。表紙に事業所評価の見方のわかりやすい説明があるとよい。	3ヶ月に1度ミーティングにて振り返りを行います。 ミーティングにあらかじめ項目を作り、確実に振り返ります。
B. 事業所のしつらえ・環境	交流室で行われている取組みや活用例を広報紙で紹介し、2階を普段から会議や教室などで利用してもらえる取組みを行います。	太極拳やお菓子作り等の活用して頂いている状況の広報は行った。地域の会議でもよく利用してもらい、事業所に来てもらう機会にはなっている。	いきなり1階に入っていくのは敷居が高い。2階を利用しながらまずは事業所に入ってもらうことも重要。	1階・2階の環境整備を行います。交流室については主体的にしてももらえるよう、備品などそろえていきます。
C. 事業所と地域のかかわり	八幡地域づくり計画をスタッフ全員が把握したうえで、取組みに参加していきます。 ミーティングで計画を周知していきます。	全員の把握にはいたっていない。資料をもらい、ミーティングで周知するも具体的に参加していくことが重要。	SOS キーホルダーや避難場所としての活用など、地域の資源としての関わりは出来ていると思う。 振興会には他のスタッフにも参加してもらえれば。	様々な事業は継続して関わっていきます。 一部のスタッフだけでなくいろんなスタッフが関わることができるようミーティングで検討していきます。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	サロンに継続的に参加できるように取り組みます。 なじみの人、場所を把握していくために、支援マップを作成します。	サロンには出向いたが、スタッフが付き添うことができず、なかなか継続して参加することができなかった。支援マップは課題。	個人情報にとらわれず、顔写真や実名で地域に直接利用者の支援をお願いしている事業所もある。村・町熊入の人だけでも公開していければ何か役に立てれるかも。	地域の様々な行事には継続して参加していきます。 事前に行事把握し、参加できる体制を整えていきます。
E. 運営推進会議を活かした取組み	日常の取組みを写真などの資料を準備して、わかりやすく伝えていきます。	報告の仕方などわかりやすくお伝えしていくにはまだ課題がある。	他の事業所などではパワーポイントを使用して写真などを映し出すことなどもしているので検討してはどうか。 様々な人が集まる機会なので、熊入について考えることもよいのでは？	パワーポイントなどを活用し、日頃の様子を伝えていきます。 小規模多機能や山鹿市の状況を知ることができる場にしていきます。
F. 事業所の防災・災害対策	火災訓練などは、近隣地域を交えた訓練を計画します。 防災に近所の方と一緒に取り組みます。	定期的に火災避難訓練は行なっているが、近隣のみなさんに協力いただける体制がもう少し必要。	今年度は校区全体での防災訓練を予定している。 事業所としても大切なことなので参加してほしい。	スタッフ全員が八幡校区の自主防災システムを理解し、訓練に参加する。